

アルテピア

社団法人 北海道美術館協力会

札幌市中央区北2条西17丁目 TEL・FAX 011-644-4025



三岸好太郎「花」

1933年 油彩・キャンバス 92.0×61.7cm (北海道立三岸好太郎美術館蔵)

三岸好太郎はその画業を通して絶えず新しい試みに挑戦したことで知られるが、とりわけ亡くなる前年の1933年は前衛的な実験に明け暮れた観がある。ひっかきによる線条表現、抽象的な構成、そしてコラージュによる造形などその探究は多岐にわたった。

ひっかきについて節子夫人はこう回想している。「油彩に黒の下塗りとホワイトを厚くほどこして置いて、子供たちに釘や金属の棒を与えて自由に線描をさせた。それが後に女となり、花となったのである。さまざま無意識の効果を追いながら発足したのである。」

不作為に導かれたイメージの利用という点でそれは

シュルレアリスムのオートマティスム（自動記述法）に通じ、具象とも抽象ともつかない形象が画面に登場するようになる。一方、ひっかきによる彫刻的な線描は三岸のマチエールへの関心を喚起した。

かつて「おばけの花」と呼ばれていたこの作品では、原生動物のような黒い形象に細い刻線が重層的に絡みあい、グロテスクな生命感が獲得されている。即興性の強い制作であるが、三岸の繊細な美的神経が隅々まで行き届いていることは、ただ一箇所施された朱の効果を見ても明らかであろう。

私にとっての美術館



北海道美術館協力会副会長 安念 正義

〈わが家の文化の日〉

年老いた二人暮らしは気ままなもので、某日の朝、「今日は天気がいいようだから出かけようか」といても出かけるところは自ら限られている。そのひとつが市内にある近代美術館である。

玄関を出てバス、地下鉄を乗り継ぎ約五十分で辿りつく。ドアからドアで一時間足らずとは有難い事である。この地に住んでいてつくづくよかったと思う。

ロビーに入ってまず打合せ（？）、落ち合う場所と時刻を決めたら、二人は別行動で夫々好きなように観てまわるといのが、わが家のならわし。むかしはむりして合わせていたころもあったが、十年ほど前からやめにした。

夫々の観かたで気のむくままに気の済むまで時間をかけて鑑賞させてもらう。そして、ころあいをみて約



束の場所で落ち合い二階のレストランで、感想などを話し合いながら食事をしたあと、わたしは本屋、彼女はデパ地下あたりをまわって夕方までに夫々帰宅する、というのがわが家の「文化の日」の一日コース。

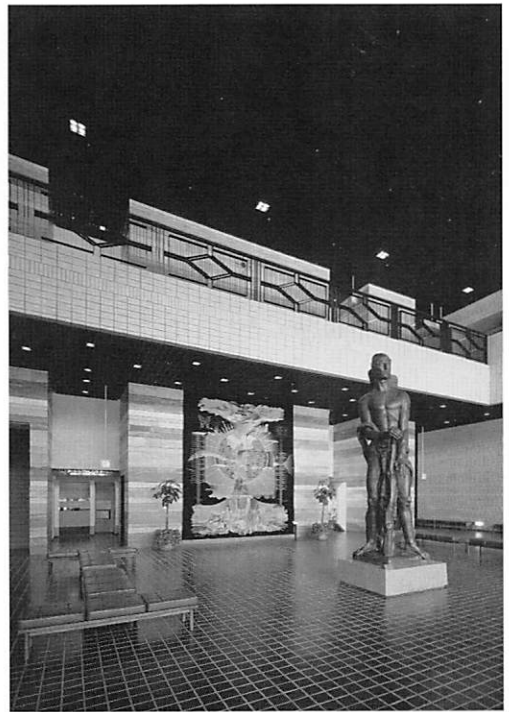
体調のよいときには隣の三岸館のほか、季節やテーマによっては「芸森」「宮の森」にもあしをのぼすこともある。

〈私にとっての美術館〉

それは「すぐれた美術作

品の宝庫」であり、「世俗を超えた異質の空間」であり、そして程よく作品が配置された前庭はまさに「アート・パーク」である。

訪れるたびに感ずることだが、玄関に足を踏み入れると、大きく開放されたホールの静謐な空間。正面に据えられたE・ブルデルの巨像「力」、そしてその奥の壁一面にP・サタムの大きなゴブラン織のタペストリー「生」。これらに迎え入れられると感動を覚える。加えて、何年もかけて構想された企画展と常設のこ



れくしょんぎゃらりい、どれもがすばらしく、市民として誇りに思う。

異質の空間に身をおき、すぐれた美術作品の美しさに感動し、その作品が内に秘めるエネルギーをわかち与えてもらって外に出ると前庭の樹々を背景にゆったりと風をとらえて静かに空中を舞う作品「風の対話」に、自在に生きる姿勢を教示されて美術館をあとにすると、自分がりフレッシュされて満ち足りた気分にと、まさに至福のひとつ

きに恵まれたことを感謝せずにはいられない。

〈楽しみながら楽しむ〉

先に二人別々で云々ということを書いた。とりたてて言うほどのことではないが、ふたりにはそれぞれの観かたがあつていい、「十人十色」といわれるように十人いたら十通りの観かたがあつていいのではないかと考えると、お互いに気持ちがあつたというところで、要するに観て楽しむ、

楽しみながら観るといふことにつぎ。

そのためには、足しげく美術館に通って本ものになれるしかない。

ある作品の前に立って、何かを感じる、あるいは感動を受けることがあれば、それを大事にすればよい。日ごろ疲れがち、あるいは貧しくなりがちな自分に安らぎが得られ、ところが豊かになれば、それほどありがたいことはないと思う。

〈あらためて思うこと〉

感動の余韻を楽しむかわら、ふと協力会のことを思う。ここ数年来、協力会のありかた、協力会として何をなすべきかを折りにふれて考え議論することも多い。いわゆる主従関係という意味ではなく、「美術館あつての協力会」という位置づけに立つと問題の周辺がよく見えてくる。そのとき、美術館に託されている社会的役割をどうみるかと

いうことが肝要であり、また外からの眼で広く一般の利用者の立場なり気持ちになつて考えるという視点の大切さを感じる。

道立美術館は道民の「財産」なのだから、より広く道民の方々に利用されて、親しまれ・愛されることが望ましい。そのために、館との有機的な連携を図りながら、知恵をしぼり、工夫

を重ねて活動していくことが、公益法人としての協力会の重要な役割であることであらためて思うところである。

筆者プロフィール

平成6年6月
美術館協会の理事
平成12年6月より
美術館協会の副会長に就任



近代美術館

ゴッホ展

七月五日(金)～八月二五日(日)

フィンセント・ファン・ゴッホの芸術に重要な役割を果たした人物は少なくありません。偉大な先人ドラクロワやミレー、同時代のゴーガン。また、画商タンギー、郵便配達夫ルーラン、医師ガシエなどは物心両面にわたってフィンセントを支えました。

なかでも、フィンセントの弟テオは最大のパトロンであり、またテオ宛に



「麦藁帽子を被った自画像」
ファン・ゴッホ美術館蔵

残された彼の膨大な手紙が物語るように、テオはフィンセントの最大の理解者、評論家でもありました。

本展では、もう一人のファン・ゴッホ、すなわちテオにも焦点をあわせませす。手紙で説明されているなどの約四〇点のゴッホ作品、彼らと深い関連があったゴーガンなどの作品約二〇点、さらに手紙や写真などの関連資料も含まれます。

三岸好太郎美術館

北の個人美術館散歩

風土を彩る6人の画家たち

五月三十一日(金)～七月一四日(日)

近年、各地に地元出身やゆかりの画家の記念館が相次いで開館しています。それらは、個々の画家の作品と人生を顕彰するとともに、その土地と作家の関係、さらにはその地の歴史を見直す場となっています。

作家ゆかりの地に建てられた記念館であればこそ、作品の背景となる風土のことも伝わってきますが、それ故必ずしも足を運びやすい場所にあるとはいえません。今回は、北海道各地の記念館(記念室)から、木田金次郎(木田



居串佳一「海に生く」1936年
網走市立美術館蔵

金次郎美術館・岩内町)、中村善策(市立小樽美術館・小樽市)、三岸好太郎(三岸好太郎美術館・札幌市)、国松登(国松登ギャラリー・真狩村)、居串佳一(網走市立美術館・網走市)、松島正幸(松島正幸記念館・岩見沢市)の6作家・6館を紹介いたします。彼らは北海道画壇の青春期である大正から昭和初期に活動を始めた画家です。それぞれに作風や活動の舞台は異なりますが、生まれ育った北海道の風土や自然は作品の底流となっています。北海道が生んだ画家と美術館を紹介するとともに北海道美術史の一断面を概観いただく展覧会です。

旭川美術館

奈良美智展

「DON'T MIND, IF YOU FORGET ME」

六月一四日(金)～七月二八日(日)

幼子らしい二頭身の体に、時にどきっとさせられるほど挑戦的なまなざしをたたえた、特異な相貌の子どもたち。作者、奈良美智は、若者を中心に絶大な支持を受け、いまや国際的にも注目を集める作家です。奈良は一九五九年、青森県弘前市生まれ、国内の大学で学んだ後、ドイツ国立デュッセルドルフ芸術アカデミーに在籍し、海外での展示活動もさかんに行ってきました。



奈良美智「The Little Judge」2001年

現の広がりと奥行きを感得させるものとなるでしょう。

本展は、国内の美術館で初めての本格的な個展として、全国巡回されるものです。出品作品はすべて新作で、絵画、ドローイングの他、大がかりな立体作品や、インターネットを通じて公募した、奈良の作品のキャラクターを模したぬいぐるみなど、幅広いジャンルに及んでいます。愛らしさと残酷さ、無垢としたたかさといった相反する性格をあわせもち、みる人の記憶や想像力に働きかける深い物語性を帯びたその世界は、多くの人々に、現代美術の表

函館美術館

ソニア・ドローネ展

La Moderne

四月六日(土)～五月一九日(日)

ロシア帝政末期、ウクライナの寒村に生まれたソニア・テレク(一八八五～一九七九)は、二〇歳でパリに留学し、以降七〇年以上にわたってパリを拠点に作家活動を展開しました。当初はフォーヴ的な作品を描いていたものの、一九一〇年にロベール・ドローネと結婚した頃から、夫とともに鮮やかな色彩と多彩な円によるリズム感のあるコン



「リズム」1945年

デザイナーとしてのソニア・ドローネも併せて紹介します。

ポジションを特色とする新しいキュビスムーオルフィスムーを追求します。そこから生み出された独自の純粹絵画は、その後の抽象芸術にも決定的な影響を及ぼすことになりました。

その一方で、服飾やテキスタイル、室内装飾などでも恵まれた才能を発揮し、半世紀以上にわたり、デザイン界でも独自の位置を占めていました。日本初の本格的な回顧展となる本展では、初期から晩年にいたる絵画作品はもちろん、

帯広美術館

岡本太郎と縄文

五月二四日(金)～七月三日(水)

「芸術は爆発だ」と叫ぶポーズや大阪万博の「太陽の塔」などで強烈な存在感を示した岡本太郎。彼は画家、彫刻家、写真家、デザイナー、文化人類学者、評論家として多彩な活動を展開し、戦後日本の芸術文化に多大な功績を残しました。

岡本太郎はまた、「縄文の美」の発見者でもありました。一八歳でパリに渡り、民族学、人類学を学んで帰国した彼は、一九五一年、偶然訪れた東京

国立博物館で縄文土器を見て衝撃を受けます。翌年その感動を「縄文土器論」として発表、オリジナルな日本最古の造形美に人びとを目覚めさせました。

本展は、古代縄文人が驚異の造形力で土に託した美の呪力と、それに呼応する岡本太郎の創造活動を紹介するものです。展示される縄文出土品や岡本太郎の作品は、人間生命の根源をえぐる美の世界へと私たちを誘います。



岡本太郎「千手」1965年

釧路芸術館

中村コレクション秘蔵の名品

コロ、ミレー バルビゾン派の巨匠たち

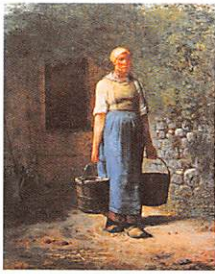
五月二五日(土)～七月一〇日(水)

一九世紀中葉のフランスにおいて、都会の喧騒から離れてパリ郊外のフォントヌの森近くの小村バルビゾンに集い、その美しい自然や田園風景、働く農民の情景などを描いた画家たちのグループが生まれ、バルビゾン派と呼ばれるようになりました。

彼らは当時のアカデミズムに反して、野外での観察に基づく風景や素朴な農民の生活をありのままに表現し、のちの印象派の先駆としても高く評価され

ています。また、日本でも明治期に紹介された彼らの作品は、日本の近代洋画の幕開けにも大きな影響を与えたことでも知られ、親しみやすい題材と表現が今日でも広く人気を集めています。

本展では、その中でもとりわけ著名なミレー、コロの作品を核に、バルビゾン派の主要作家計三二名の秀作を、国内有数の同派の収蔵を誇る個人コレクションから紹介し、その魅惑の世界をご鑑賞いただきます。



J.F.ミレー
「井戸から戻る女」
1855-60年頃

芸術の森美術館

イタリア・ルネサンス素描展

三巨匠とその流派 (仮称)

六月三〇日(日)～八月一八日(日)

人類史上もっとも高揚し、また創造的であった時代、ルネサンス。素描は、この時代以来、ものの本質を的確に把握するのに最も適した手段として、また、芸術家の心のなかのアイデアをもっとも生き生きと直接的に示すものとして、高く評価されてきました。それは単なる下絵や習作ではなく、彫刻や建築にまでおよぶあらゆる芸術の根

本であり、また、それ自体の力を秘めたひとつの表現でもあります。単なる紙の表面が光にみちた精神的な空間に変容する瞬間……。色彩に頼らずに線と明暗のみによって対象を把握する素描は、多くの人々を魅了してやまないでしょう。

ルネサンスの三巨匠といわれるレオナルド・ダ・ヴィンチ(一四五二-一五一九)、ミケランジェロ(一四七五-一五六四)、ラファエロ(一四八三-一五二〇)らの作品を通してヨーロッパ芸術の根本である素描の魅力を紹介します。



「クリストの姿容」のため的人物習作「ブ」
ミケランジェロの「イリス」(フィレンツェ、カーサ・オナロティ所蔵)

札幌彫刻美術館

日本におけるイタリア二〇〇一

二つの文化 小寺真知子彫刻展

六月八日(土)～七月一四日(日)

函館市出身の小寺真知子は、一九七九年東京の画廊でイタリア具象彫刻の巨匠クロチェッティの「水浴の女」と衝撃的な出会いをしました。翌年イタリアに留学、クロチェッティとグレコに師事し、以後現在までローマにアトリエを構え制作しています。

小寺は、古代ギリシャ・ローマ彫刻のように千年、二千年の時の重みに堪える生命力を持った具象彫刻にこだわって続けています。イタリア伝統彫刻の技法と鑄造に裏打ちされた作品は、生

き生きとした生命感に溢れています。

小寺の彫刻は、雄大な北海道に置かれた時、より一層輝きます。北海道虻田町の「太陽の讃歌」、岩見沢市の「イリス(虹の女神)」、函館市の「青海・ティティス(海の女神)」は、流麗なポーズの中に優雅さと気品が漂う作品です。

北海道で育まれた感性は、イタリアの文化に触れ研鑽を重ね益々磨かれていきました。彫刻家小寺真知子をそだてたのは、日本とイタリアの二つの文化といえましょう。



「イリス(虹の女神)」
1998年

小寺の人間賛歌の彫刻世界をご覧ください。

MUSEUM CALENDAR

2002. 4月～10月

美術館の特別展覧会ご案内

		4	5	6	7	8	9	10
近代美術館	貸	4/18～6/2 開館25周年記念 スキャンディナヴィア 風景画展		貸	7/5～8/25 開館25周年記念 ゴッホ展		9/4～10/14 後藤純男展	
	館							
三岸好太郎	4/5～5/26 所蔵品展(第1期) 風景画の詩情		5/31～7/14 北の個人美術館散歩 風土を彩る 6人の洋画家たち		7/19～9/8 所蔵品展(第2期) 道化とマリオネット		9/13～11/17 二人の超現実主義者 福沢一郎と三岸好太郎	
旭川	4/18～6/6 開館20周年記念 安野光雅 ～世界の旅～展		6/14～7/28 開館20周年記念 奈良美智展 ～I DON'T MIND, IF YOU FORGET ME		8/3～9/8 木彫博物誌 ～自然と芸術の語らい 開館20周年記念所蔵品展		9/13～10/20 開館20周年記念 印象派の巨匠たち展 ヴァルラフ＝リヒャルト 美術館コレクション	
函館	4/6～5/19 ソニア・ドローネ展 La Moderne		5/28～7/7 生誕100年 岩橋英遠展		7/16～9/1 極東ロシアのモダニズム 1918-1928 ロシア・アヴァンギャルドと出会った日本		9/10～10/27 聖母子と子供たち展	
帯広	4/9～5/15 さくらに見る日本の美 大観・松岡から 現代作家まで		5/24～7/3 岡本太郎と縄文		7/12～9/16 ニルス＝ウド展(自然へ)		9/27～11/14 寺島春雄展	
釧路	4/6～5/14 (聖と俗・幻想と風刺) 版画と絵画にみる 魅惑の西洋美術 世界巨匠秀作展		5/25～7/10 (中村コレクション秘蔵の名品) コロ、ミレー バルビソンの巨匠たち		7/20～9/16 <i>Papiers à la mode</i> パピエ・ア・ラ・モード		9/28～11/24 (画業55年) 赤穴宏展	
札幌彫刻	3/30～6/2 平成14年度前期収蔵品展 裸婦の美		6/8～7/14 日本におけるイタリア2001 二つの文化 小寺真知子彫刻展		7/20～8/25 本郷新展		8/30～10/14 第11回北の彫刻展	
札幌美術の森	1/5～ 4/14 森の美術 散歩	4/27～6/23 現代・〈版〉展		6/30～8/18 イタリア・ルネサンス素描展 ～三巨匠とその流派～		8/24～9/25 ロバート・ メイプルソープ レトロスペクティヴ		10/1～10/20 フリードリッヒと テレジンの子ども たち

※貸館の場合は、会員登録は使えません

○道立近代美術館開館25周年記念○

弟テオとの人間愛に光をあてる

ゴッホ展

Vincent & Theo van Gogh

ゴッホ作品約40点、関連画家作品約20点
その他書簡、写真等も展示

■2002年7月5日(金)～8月25日(日)

開館時間＝9:30～17:00(入場は16:30まで)

会期中の金曜日は19:30(入場は19:00まで)

休館日＝毎週月曜日

■道立近代美術館

札幌市中央区北1条西17丁目 ☎644-6881

○ゴッホ展ホームページ <http://www.aurora-net.or.jp/gogh/> ○

美へのかけ橋

アルテピア会員募集

世界の art に出会える

来館者の声

『ハッピー・バディ・ディ』を見て
子どもと一緒に美術を五感で楽しむことを思い
出すことができました。また、そして、もっと出
会えたらいいなあ…。 竹内 澄江

『木田金次郎展』を見て
さからうことも出来ない自然の厳しさ。それだ
けではない自然のもつやさしさをも教えてくれる
作品が好きです。 渡辺 保雄

年会費等詳細は北海道美術館協力会（アルテピア） 札幌市中央区北2条西17丁目 TEL・FAX 011-644-4025



- アート・トレイ（小） 21×15cm
- イーゼル 20×11cm

近代美術館売店商品

●猫のうつわ



編集 だより

ミレニアムの言葉が
少し色あせてきた二
〇〇二年ですがアル
テピア（北海道美術
館協力会）にとって
は二五歳の誕生日を
迎える大切な年。合わせて道立近
代美術館も開館二五周年の節目の
年。記念の「ゴッホ展」をはじめ、
今年も道内美術館はそれぞれ充実
した企画展を開催します。居なが
らにして世界の美術作品を堪能で
きる嬉しい年になりそうです。
そして四〇号を迎えた会報「アル
テピア」の今後に向けて、会員
の感想、ご意見等を広報部一同、
お待ちしております。

※新たに運営委員会を設置

平成十一年六月に「運営検討委
員会」を設置し、当会の運営全般
に係わる、主として定款の見直し
等の検討を進めてきましたが、会
のあり方、名称、目的等、基本的
な問題にも取り組むことになり、
問題が大きすぎ時間がかかること
から、それまでの検討事項を一応
整理をし、この検討委員会を廃止。
新たな体制のもとに再出発するこ
とにし、本年二月新たに「運営委
員会」を設置しました。
委員長に小林敬明氏、委員には
阿部三恵、岩田 泰、植村 敏、
下田 経、杉本 亙、関川節子、
山口節子の各氏が選任されました。